

巻頭言

～「SBI大学院大学 紀要」の創刊にあたり～

SBI大学院大学 学長
北尾 吉孝

2008年4月に発足したSBI大学院大学は、この10月で発足後5年半が経過した。SBI大学院大学の建学の精神は、人間学を重視した「徳育」を基本に、実践的な「実学」をも重視しつつ、これらの素養の修得を図る教育を通じ、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる、プロフェッショナルな人材を育成することである。本大学院はこうした建学の精神にもとづき、すでに累計で70名を超える修了生を世の中に輩出してきた。

何のために勉強をするのか、私は学問の本義は二つあると考えている。一つは、「夫れ学は通の為に非ざるなり。窮して困まず、憂えて意衰えざるが為なり。禍福終始を知って惑わざるが為なり」（『荀子』）の言葉が示すように、複雑な問題に直面しても惑わないように、自立性を磨き上げて自由を確立するために行うのである。もう一つは、「自ら安んじ、自ら献ずる」（『書経』）、つまり内面的には自らの良心の安らかな満足を得て、対外的には世のため人のために尽くす、ということだ。

本大学院はあらためてSBI大学院大学の学生に対して、考える力や状況判断力、人間力をつけさせる授業を果たして提供できているか、今一度省みる必要がある。「徳育」と「実学」を兼ね備えた人材を育成することは、本大学院の使命である。その中で、教員自身も指導力を向上させるべく、常に工夫と研究が不可欠なものとなる。

そこで今般、本大学院は、本学の教員による執筆論文集である「紀要」を刊行して行くこととした。「SBI大学院大学紀要」（2013年度）と題する本号がその創刊号であり、本大学院では来年度以降も引き続き毎年度、紀要を刊行して行くこととする。

本創刊号は専任教員が主体となって執筆した論文集であるが、本大学院が経営人間学から経営管理科目、さらには事業計画演習に至るまでの多彩な科目群を擁していることを反映して、紀要論文のテーマも、中国古典思想から産業革命と起業論、組織・人事論、財務・会計、金融論や国際経済、さらには事業計画関連に至るまで、バラエティに富んでいる。その一方で、各紀要論文を概観すると、ある大きな共通点が見られる。それは、どの論文も理論的な裏付けに支えられつつ、実務的な視点も十分に具備している点である。本大学院は、「研究教育上の目的」として、「経営管理に関する理論と実務を融合させた教育研究を通して・・・高度専門職業人を養成する」ことを明示的に定めたところであるが、正に本編に収められた各論文こそ、経営管理に関する理論と実務との融合の精神を体現したもの、と言えよう。

本大学院による紀要の刊行は多少遅きに失した感が否定できないが、本学教員が本学の修了生

とのネットワークをも借りつつ、総力をあげて刊行に至ったものである。

本紀要を来年度以降も刊行して行くことにより、本学自身の教育と研究の水準向上の一助とすることと致したい。さらには、本紀要が本学外の多くの人々にも広く供覧され、そのお役に立つことを通じて、本大学院の認知度向上に寄与することを強く期待するものである。

2013 年 10 月